

## 平成 31 年度事業計画

### 1. はじめに

沖縄県の発表によると、平成 30 年(2018 年)暦年の入域観光客数は 984 万 2,400 人で、前年比 104.7%、+44 万 6,200 人となり、度重なる自然災害や麻しん発生の影響があったものの、5 年連続で国内客・外国客ともに過去最高を更新した。

国内客は、過去最高の 693 万 8,600 人で、前年比 101.2%となった。外国客については 290 万 3,800 人で、前年比 114.2% +36 万 1,600 人となった。前年と比べて入域観光客数が増加した要因としては、行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと、国内航空路線の拡充による国内客の増加、東南アジア方面などの海外航空路線の拡充、クルーズ船寄港回数の増(528 回前年+13 回)による外国客の増加等があるとされている。

沖縄県観光振興基本計画(第 5 次)では、平成 33 年度(2021 年度)までの目標は、観光収入 1 兆 1,000 億円、観光客一人当たり消費額 93,000 円、平均滞在日数 4.5 日、延べ宿泊者数、4,200 万人泊、入域観光客数 1,200 万人が掲げられており、入域観光客数の内訳では、国内客 800 万人、外国人観光客 400 万人(空路・海路ともに 200 万人)となっている。

沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューロー(以下、OCVB)では、これらの目標を達成するために、沖縄への玄関口である空路・海路ともに既存就航路線需要の拡充や新規路線需要の獲得、観光客の目的や視線に沿った誘客プロモーションの強化や受入体制の更なる整備など、官民一体となった各種事業を展開しているところである。

なお、平成 29 年度の実績では、入域観光客数は 958 万人、観光収入は 6,979 億 2,400 万と増加したが、観光客一人当たりの消費額は 72,853 円、前年度比 96.8%となっている。

次に、那覇市観光基本計画(平成 27 年 6 月策定)では、計画最終年度(平成 36 年度)の目標値として、観光収入 4,500 億円、観光客一人当たり市内消費額 90,000 円、延べ市内宿泊客数 1,300 万人泊を掲げている。平成 29 年度実績では、観光収入 3,406 億円で前年度比 106.9%、観光客一人当たり市内消費額 75,295 円で同 103.1%、29 年(暦年)の入域観光客数は 827 万 8,917 人、市内宿泊客数 679 万人泊で前年比 106.6%)となっている。

なお、観光客一人当たり市内消費額、延べ市内宿泊数を伸ばしていく方策が継続的な課題と考えており、行政や OCVB 等の関係機関とこのことを共有しながら、連携して取り組みを強化していく必要がある。

平成 31 年度は、多様化する観光客の動向の変化、外国人観光客の増加に対応すべく那覇市及び関係機関と連携しながら誘客宣伝事業の展開及び環境美化や観光危機管理等の受け入れ体制整備を推進するとともに、多様なイベントの開催などによる MICE 効果の

拡大など、伝統文化の継承と地域経済の活性化に取り組む。

また、日本遺産プロジェクトや地域 DMOの登録に向けた取組を進めるとともに、観光協会ホームページのリニューアルによる情報発信の充実強化を重点事業として取り組むほか、引き続き、那覇市観光案内所の運営をはじめ、観光まちづくり整備事業(那覇まちま〜い)や外国人観光客受入整備事業等、安全・安心・快適な観光地としての取り組みの充実・強化を図るべく、各種事業を次のとおり実施するものとする。

## I 総務、広報及び協会運営関係

1. 那覇市観光協会の会員拡大と組織の強化事業
2. 観光情報誌「NAHA-NAVI」発行事業
3. 観光情報サイト「那覇ナビ」運営事業(那覇市観光協会ホームページ)
4. 那覇観光キャンペーンレディ派遣事業
5. 「ショップなは」運営事業

## II 観光客の誘客・受け入れ事業

1. 「那覇市観光案内所」運営事業
2. 観光まちづくり整備事業(那覇まちま〜い)
3. 外国人観光客受入整備事業
4. クルーズ船受入推進事業
5. 観光クーポン券取扱事業および修学旅行、MICE 誘致事業

## III 指定管理受託事業

1. 波の上ビーチ広場管理運営事業
2. 松山公園文化交流施設管理運営事業

## V イベント(MICE)事業

1. 島ぜんぶでおーきな祭「第 11 回沖縄国際映画祭」 4 月 18 日(木)～21 日(日)
2. 第 45 回「那覇ハーリー」 5 月 3 日(金)～5 月 5 日(日)
3. 第 49 回「那覇大綱挽まつり」 10 月 12 日(土)～10 月 14 日(月)
4. 第 54 回「琉球王朝まつり首里」 11 月 3 日(日)
5. 第 35 回 NAHA マラソン 12 月 1 日(日)
6. プロ野球「読売巨人軍春季那覇キャンプ」 2020 年 2 月予定

## I 総務、広報及び協会運営関係

### 1. 那覇市観光協会の会員拡大と組織強化事業

那覇市観光協会は、那覇市及びその周辺地域の観光事業の振興を図り、地域文化の向上及び経済の発展向上に寄与し、併せて公益に資することを目的に設立されている。これらの目的に賛同する個人、法人及び団体の会員及び賛助会員の加入拡大を図ることにより、連携して那覇市の観光振興に取り組むとともに、協会の安定的な運営をめざす。

①会員特典の充実を図るとともに、会員企業に対し語学講座等の研修を実施する。

②WEB 上での会員情報共有サイトの充実を図ることにより、会員に有益な情報を提供し、メリットを享受できる取り組みを強化する。

\*会員数 438 社（平成 31 年 2 月末現在）

\*平成 31 年度目標:450 社

### 2. 観光情報誌「NAHA-NAVI」発行事業

那覇市内の道路マップや首里城をはじめとする観光名所及び会員店舗案内等を掲載した観光情報誌「NAHA-NAVI」については、観光客や旅行社、修学旅行関係者から好評で全国から送付依頼が多い。「NAHA-NAVI」を継続発行する為、会員企業を中心に広告収入が重要である。誌面の充実とともに広告確保の営業活動を強化する。

①一般用「NAHA-NAVI」の発行 年 3 回発行・年間 24 万部

②修学旅行用「NAHA-NAVI」の発行 年 2 回発行・年間 30 万部

### 3. 観光情報サイト「那覇ナビ」運営事業（那覇市観光協会ホームページ）

WEB を活用した観光情報提供や他団体、会員企業との情報共有、連携が重要となっており、今年度はホームページのリニューアルを行う。

①観光客のニーズを捉え、利用しやすい内容や常に新しい情報提供を行うシステムの充実を図る。

②那覇市観光協会会員企業との連携を強化し、会員企業情報の提供を行う。

### 4. 那覇観光キャンペーンレディ派遣事業

那覇市の観光親善大使として「那覇観光キャンペーンレディ」を、姉妹都市や観光交流都市へ派遣し、那覇の魅力や旬な沖縄の情報を発信することで、年間を通じて効果的かつきめ細やかなプロモーションを行い誘客強化を図る。

### 5. 「ショップなは」運営事業

①「ショップなは」の商品力・販売力強化を図り、那覇市の特産品、地域おこし商品などの販売に取り組む。

\*那覇市長賞受賞商品及び県内の地域こだわり商品の販売

\*那覇市のイベントや地域おこし商品、「龍柱会議」商品などの販売

- \*プロ野球「読売巨人軍」応援グッズの販売
  - ・平成 31 年度目標:15,330 千円(前年比 105%)
  - (平成 30 年度 売上見込み 14,600 千円)

## II 観光客の誘客・受け入れ事業

### 1. 「那覇市観光案内所」運営事業

日本政府観光局認定のビジットジャパン案内所(カテゴリーⅡ)として、増加する外国人観光客のニーズを捉え、対応スタッフの充実を図ることにより、日本人観光客に対しても満足度アップに繋がる情報収集と案内レベルのアップを図る。平成 30 年度の那覇市観光案内所(てんぶす那覇1階)の来訪者見込みは 96,400 人(前年度比 96.4%)そのうち外国人観光客は 14,000 人(前年度比 83.0%)と見込まれる。

- ①那覇市内及び県内観光地のパンフレット等の配布及び那覇市観光協会発行「NAHA-NAVI」の配布、全国発送
  - ②那覇市観光協会のホームページをはじめ WEB を活用した那覇市観光情報の発信。
  - ③観光関連団体、会員企業とも連携を強化し、観光客に対するおもてなしサービスの強化を図る。
  - ④手荷物預かり、コインロッカーの運営・管理、ベビーカー、車いすの貸出、観光施設のチケット販売、オキカ(バス・モノレール乗車券)の販売、定期観光バスチケット販売等
  - ⑤県内観光地ツアーの企画・販売、観光関連企業等とのタイアップ企画の委託販売
- \*平成 31 年度目標 :100,000 人(前年度比 103.7%)内 外国人観光客 15,000 人(前年比度 107.1%)

### 2. 観光まちづくり整備事業(那覇まちま〜い)

全国的に着地型観光の重要性と共に多様な着地型商品のラインナップが成熟してきている中で、沖縄観光旅行者は必ず空港、港湾の玄関口である那覇市を滞在することから、「那覇まちま〜い」は、那覇市での滞在時間を有効活用及び那覇市滞在日数の延長を志向している。平成 30 年度においては国土交通省及び観光庁の外郭団体である日本観光振興協会から「第 12 回産業まちづくり大賞」において「特別賞」を受賞し、創立 8 年目にして沖縄で初めての受賞という名誉を獲得しつつ、当該事業の一定の認知度向上が図られた。しかしながら、WEB 等オンライン予約サイトの進展とともに旅行者の旅行形態はこれまでの既存の店舗型旅行社主催のツアーから個人型旅行に急激にシフトしているのが実態であり、個人客及び WEB 系販路への販売促進が重要となっている。

これらを踏まえ平成 31 年度については、現在も変容し続ける旅行者動向に適正な対応をすることを念頭に入れ、「那覇まちま〜い」の体制再構築に取り組む。

- ①催行コース数の見直し及び厳選し、集客の分散を回避しつつ、収益性の改善を図る。
- ②「那覇まちま〜い」をベースとした富裕層向け旅行商品の開発と催行による参加料単

価値の引き上げを志向する。

③流通・販路・観光関係団体とのタイアップ強化

OCVB との連携をはじめ、各旅行社へのアプローチを積極的に行い、加えて那覇市内のホテルとの連携も視野に入れ販路拡大を強化していく。

④修学旅行の誘致強化

OCVB が主催する、沖縄修学旅行フェアへの積極的参加と共に他府県の学校関係者及び旅行社に修学旅行における国際通りでの自由時間の行程の前後に「那覇まちま〜い」による学習プログラムを絡めていくことをアピールしていくこととする。また、海外の教育旅行の誘致についても取り組みを進めて行く。

\*平成31年度目標:12,000人(前年度比109%)(まちま〜い参加人数)

3. 外国人観光客受入整備事業

新規路線就航や既存路線の増便、クルーズ船寄港増などで、外国人観光客が順調に伸びていくことが予想される中、那覇市内の宿泊施設、公共交通機関、土産品店、飲食店等に対する言語サポートによる受入れ体制の整備や住民の外国人受入に対する機運向上が更に重要になっている。本事業では、外国語スタッフを配置し、観光案内や事業所へのサポート等を行うことで、外国人観光客の利便性と満足度の向上を図る。

①外国人観光客受入サポート業務

\*各種イベントや災害時の対応、会員店舗や事業所へ出向き語学指導や多言語表示支援、クルーズ船入港時の受け入れサポート、多言語マップの作成等

②語学講座、翻訳業務

\*外国語講座の実施(英語、中国語、韓国語)、ホームページ等の翻訳業務

③住民(市民)の外国人観光客受入に対する機運向上に関する活動、SNS等を通じた観光情報の発信、アンケート調査の実施等

4. クルーズ船受入推進事業

那覇港へのクルーズ船寄港時において、臨時観光案内所を設置・運営することで、クルーズ船乗客に対し市内及び周辺の観光地等の案内を行い、クルーズ船寄港の増加及び継続の促進に取り組む。本事業は、那覇クルーズ促進連絡協議会(沖縄総合事務局、沖縄県、那覇港管理組合、那覇市、OCVB等)からの受託業務である。

なお、国土交通省の発表によると、2018年(暦年)のクルーズ船の日本港湾への寄港回数は、前年比5.9%増の2,928回(外国船社1,913回、日本船社1,015回)となり、過去最高を記録。港湾別では、第1位:博多港279回(前年第1位:326回)、第2位:那覇港243回(前年第3位:224回)、第3位:長崎港220回(前年第2位:267回)となっている。那覇港へは今後さらに寄港が増えることが予想される事から、那覇クルーズ促進連絡協議会と連携を密にしながら、クルーズで訪れる観光客と那覇市民や地域商店街との接点及び交流する機会を創出し、経済波及効果を高める取り組みを行う。

## 5. 観光クーポン券取扱事業および修学旅行、MICE 誘致事業

### ①クーポン券取扱事業

識名園、玉陵、福州園、那覇市歴史博物館、那覇市立壺屋博物館に関し、全国の旅行社とクーポン券取扱契約を締結し、集客に務める。

また、各旅行会社が対応しているスマートフォン等を活用したクーポン券の受入を促進し、個人客の集客にも努める。

### ②修学旅行、MICE の誘致活動

那覇市の会議場施設、観光地、ホテル等を活用した MICE の誘致、修学旅行の誘致等の更なる活動を促進する。

### ③保有する「第3種旅行業」資格を活用した企画事業の実施。

観光客ニーズの高い県内観光地ツアーなどを企画また観光関連企業ともタイアップし、各種ツアー等の企画販売、予約販売等の誘客プロモーション強化を図る。

## III 指定管理受託事業

### 1. 波の上ビーチ広場管理運営事業

那覇市唯一のビーチである「波の上ビーチ」に隣接の緑地帯「波の上ビーチ広場」の管理運営業務を那覇市から指定管理者として受託し、市民(県民)や観光客が使いやすい環境の整備、清掃、管理運営を行う。

また、ビーチ売店、緑地帯におけるバーベキューの運営、オフシーズンの各種イベントの企画など、市民や観光客が安全・安心で楽しめる広場として更なる活用に取り組む。

平成 31 年度「波の上ビーチ広場」収支計画(単位=千円)

	①管理運営業務		②自主事業(収益事業)	
収入	管理委託費 利用料金	7,900	バーベキュー、 売店売上	16,000
支出	光熱水量費、 清掃委託費、人件費	11,300	人件費、仕入費	12,500
	損 益	-3,400	損 益	3,500
			①+② 損益	100

### 2. 松山公園文化交流施設管理運営事業

松山公園文化交流施設(福州園、クニンダテラス、松山公園駐車場)の管理運営業務を那覇市から指定管理者として受託し市民や観光客が使いやすい環境の整備、清掃、運営管理を行う。指定管理者として4年目を迎える今年度は、施設利用者の拡大の為、自治会や那覇市文化協会、各種団体との連携の強化を図るとともに、アフター MICE や音楽祭など、更なる取り組みの強化を図る。

なお、31年度から33年度までの間、福州園の再整備工事が予定されていることから、工事期間中は、来園者の安全管理に配慮しながら、部分公開を行う予定である。

①福州園の入園者拡大に向けて、音楽祭、アフターMICE、フォトウエディング、展示会等、イベントの企画を充実強化し、施設の有効活用、活性化に取り組む。

②那覇まちま～いやクルーズ事業との連携を強化し、福州園、久米探索など歴史と文化や地域資源を活かした観光促進につなげる。

\*平成31年度目標:55,000人(前年度比101.8%)

平成31年度「松山公園文化交流施設」収支計画（単位＝千円）

①管理運営業務			②自主事業	
収入	管理運営費	20,400	駐車場収益	5,832
	福州園入園料	7,740	イベント収益	500
	施設利用料	556	自販機、他	250
	合計	28,696	飲食店売上	4,730
			合計	11,312
支出	人件費・管理費	6,500	イベント経費	250
	清掃、補修、広報	32,650		
	他			
	合計	39,150	合計	250
	損益	-10,454	損益	11,062
			① ② 損益	608

## V イベント事業

那覇市には琉球王国に由来する文化や行事が数多くあり、那覇三大祭である那覇ハーリー、那覇大綱挽、琉球王朝祭り首里などの伝統的な祭りの他、国際通りで開催される一万人エイサーや王朝行列、沖縄国際映画祭など参加型のイベントも増えてきている。また、県内では冬場の温暖な気候を生かした、プロ野球やサッカーのキャンプをはじめとするスポーツイベント等も数多く開催されている。伝統、歴史、文化、スポーツ等様々なテーマで繰り広げられるイベントを、当該実行委員会や関係団体と連携して取り組み、伝統文化の継承発展及びMICE効果の誘発を図る。

### 1. 島ぜんぶでおーきな祭「第11回沖縄国際映画祭」4月18日(木)～21日(日)

沖縄国際映画祭は沖縄国際映画祭実行委員会が主体となって、沖縄県をはじめ県内41市町村が参加するイベントで、昨年度の第10回大会は、全県での誘客実績約25万人、経済波及効果約80億円と言われており、特に県外や海外向けの訴求効果が高いイベントである。当協会は、沖縄国際映画祭実行委員会の一員として「なは応援団」の事務局を担

っており、レッドカーペットをはじめ、本番前のクリーアップ作戦やなは応援団募集イベントなどの映画祭関連事業に取り組む。

## 2. 第45回「那覇ハーリー」 5月3日(金)～5月5日(日)

当協会は歴史と伝統ある「那覇ハーリー」の実行委員会構成団体として、実行員会の事務局を所管している。今年度は45回の節目の開催であり、那覇爬龍船振興会等と協力し多くの県民、観光客に楽しんでもらえるよう取り組む。昨年の44回大会は、期間中の3日間で約16万4千人来場しており、市外及び県外等からの更なる誘客を図る。

## 3. 第49回「那覇大綱挽まつり」 10月12日(土)～10月14日(月)

当協会は「那覇大綱挽まつり」の実行委員会構成団体として、「市民演芸・民俗伝統芸能パレード」を主管している。那覇大綱挽保存会や関係団体等と協力し多くの県民、観光客に楽しんでもらえるよう取り組む。昨年の48回大会は、31万8千人来場しており、引き続き更なる誘客に取り組む。

## 4. 第54回「琉球王朝まつり首里」 11月3日(日)

「琉球王朝まつり首里」は琉球王朝の栄華を伝えるまつりとして、首里振興会が主体となって実行委員会方式で実施されており、関連イベントを含め例年多くの誘客に繋がっている。当協会は「琉球王朝まつり首里」の実行委員会構成団体として、首里振興会および関係団体と協力してイベントの広報強化に取り組む。

## 5. 第35回NAHAマラソン 12月1日(日)

NAHAマラソンは、那覇市、南部広域市町村圏事務組合等を構成団体とする実行委員会が開催しており、当協会は構成団体の一員となっている。例年約3万人がエントリーし、県外・海外から約1万1千人が参加する冬場の誘客イベントである。経済波及効果19億7,800万円(32回大会)となっている。引き続き、関係団体と協力してNAHAMアラソンの更なる発展と誘客の促進に取り組む。

## 6. プロ野球「読売巨人軍春季那覇キャンプ」 2020年2月予定

温暖な気候を生かし、県内各地で誘致されているプロ野球春季キャンプの経済波及効果は全県で109億5,400万円、巨人軍単独では22億3,000万円(いずれも29年)となっており、冬の観光閑散期における誘客に大きく貢献している。

那覇市、那覇商工会議所、那覇市観光協会の三者で構成する、読売巨人軍那覇協力会の事務局の一員として、会員企業や中心商店街の店舗等に協力会加入呼びかけの積極的な取り組みを行う。また、那覇キャンプオリジナルかりゆしウェア、琉球ガラス等のオリジナル・ジャイアンツグッズの製作、販売を行い巨人軍キャンプの支援に取り組む。